

[学術集会印象記]

第17回新潟医療福祉学会学術集会見聞記

第17回新潟医療福祉学会学術集会大会長
新潟医療福祉大学健康科学部看護学科
学部長・学科長・教授 塚本 康子



このたびの第17回新潟医療福祉学会学術集会には、たくさんの方々にご参加いただきました。ありがとうございます。発表演題71と盛況に開催できましたのも、ご参加いただいた皆様、看護学科教員をはじめとする多くの関係の方々にご協力いただきました

おかげです。心より感謝申し上げます。

今大会のテーマは、「未来へつなぐ 保健・医療・福祉・スポーツ分野のシミュレーション連携教育」でした。人を対象としている学問分野では、人を介して学ぶ内容には限界があることから、多様な事例をとおして学ぶことのできるシミュレーション教育にける期待は大きいものがあります。看護学では、学士課程教育の質を高めるカリキュラムとして、2017年10月に教育のコアとなる構造と内容にシミュレーション学習が明文化されました。また、2018年度に看護学部として新しくなる本学看護学科でも、このシミュレーション教育をカリキュラムのコアにして、1年次から系統的に学ぶことができるようカリキュラムを編成・検討して参りました。モデルを使って繰り返し学習する方法は、学生たちの問題解決能力や思考力を育てていくといわれています。今大会では、特別講演として、永くシミュレーション教育を研究・実践されてきました東京医科大学の永島美香先生にご講演いただきました。実際の展開例から、看護教育全

体を俯瞰したシミュレーション教育の意義について熱くご講演いただきました。講演会に参加した学生たちの感想からは、「早く取り組みたい」という意欲的な息づかいが感じられましたことをご報告申し上げます。

シンポジウムではシミュレーション教育の実践例について、本学理学療法学科の高橋英明先生からOSCEの実践例、国立病院機構新潟病院の木下悟先生からは一次救命救急（BLS）における実践例、新潟大学副学長の坂本信先生からはバイオメカニクスにおける実践例についてご発表いただきました。時間的に十分なディスカッションには至らなかったことが残念ではありましたが、シミュレーション教育の方向は拡大しているという感想を持つと同時に、多分野が連携しながら、より効果的なシミュレーション教育方法を開発していくという未来像も確認できました。

今大会には、企業の方々の参加もいただき、カフェコーナーの近くにはシミュレーション機器を実際に手に取り、ご覧になれるコーナーも作りました。日頃は触れることのできないモデルに触れることで、教育方法が少しイメージ化できたのではとっております。

カフェコーナーは常に盛況でした。楽しんでいただき、おもてなしに好評もいただき、学会の合間の少しの息抜きになったのではとっております。

演題の発表から講演、シンポジウムと充実した一日になりました。発表者には学生も多く、発表する学生や参加学生たちの緊張感や熱意が学会の熱気を高めていました。参加した学生の皆さまにも感謝いたします。